

校長室の窓'17

ヒーローになる

始業式から2週間が過ぎました。毎日の健康観察でも、正則の子たちはおおむね元気よく登校していることが分かります。順調な滑り出しと言えます。



ところで、本校では、朝礼の講話を校長以外の先生も行っています。季節や生活の話題や体験談など、個性豊かに話してもらうとても楽しい時間です。なかには、読み聞かせをしたり、自慢ののどを披露したり、高飛びの自己ベストに挑戦したりという、”得意技”を見せる先生もいます。今朝は、「目隠しをして校歌の伴奏をする」という離れ業に挑戦してくれました。正則の子は目を丸くして、ピアノに耳をそばだてます。見事3番まで弾き終わったとき、どよめきと大きな拍手が起こりました。素人目にも素直にすごいと感じるものでした。少しでもピアノを習っている子は、「あんなふうに弾けるようになりたい」と思ったことでしょうか。そのとき、彼女はの子たちにとってのヒーローになりました。

私たちの職業は、子どもにとって最も身近な「あこがれの仕事」です。スーパーシュートも、4回転ジャンプもできませんが、「教えること」と「育むこと」の技術と熱意、何よりも自分たち子どもへの優しさをよく分かっているからでしょう。ところが、30年前に比べて「教師」にあこがれる小学生はずいぶん少なくなりました。そういえば、先生がヒーローになるテレビドラマも、めっきり少なくなりました。一番人気は、男子ならスポーツ選手、女子なら、ケーキ・パン屋さんだそうです。もっともっと、子どもたちが夢をもってくれるような働きぶりを見せたいものです。



さて、目隠し伴奏で伝えたかったのは「できないと思うようなことでも、あきらめずに挑戦しよう」ということでした。正則の子にそのメッセージは、確かに届きました。この中から、いつか新しいヒーローが誕生するかもしれません。先生の仕事の魅力は、ほんとうはそこにあるのですが…。



